

コロナ禍における地域福祉活動について

1 現状と課題

(1) 活動の状況

新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の「つながる」取組みが中止あるいは延期となり、一部の活動は再開したものの、通いの場の多くが引き続き休止となるなど、地域福祉活動に多大な影響が出ています。

① 生活支援コーディネーター(以下、「SC」という)による調査結果

調査対象:『千葉市の生活支援サイト』に掲載中の「交流の場・通いの場」を行っている団体

調査時期:令和2年6月～10月(現在、集計済みは8月末時点)

調査方法:SCによる団体代表者への訪問面接、電話、郵送調査

調査内容:社会資源の活動状況、今後必要と感じるサービスや支援について等

○回答者属性 (活動主体)

	団体数
任意団体	42
老人クラブ	18
地区部会	17
NPO法人	8
介護サービス事業者	8
町内自治会	7
民間企業	2
その他	7
	109

○回答者属性 (活動内容) ※複数回答可

	団体数
茶話会・サロン	37
健康体操	32
シニアリーダー体操	23
趣味の集い	23
音楽・芸術・映画鑑賞	21
スポーツ	21
認知症カフェ	9
その他	8

○現在の活動状況について

	団体数	割合
通常どおり開催	29	27%
内容や人数を変更して開催	26	24%
休止中	54	49%
	109	100%

再開時期	団体数	割合
8月	3	6%
9月	3	6%
10月	4	7%
未定	44	81%

○活動継続に際しての困りごとや、不安に感じていること

	団体数
感染への不安 (対応や責任問題含む)	20
再開判断	14
感染対策の方法 (物品や場所)	11
参加者の減少	9
内容の変更が必要であること	7
その他	16

<その他内訳>
 ・特別養護老人ホームの交流スペースを会場としていたが、利用不可となり、会場の確保自体が難しいこと。
 ・再開はしたものの、高齢者同士の会話は難聴もあり、どうしても距離が近くなってしまうこと。
 など

② 千葉市社会福祉協議会(以下、「市社協」という)による調査結果

調査対象:全68地区部会

調査時期:令和2年10月

調査方法:各区事務所による電話調査等

調査内容:活動別の「7月～9月の活動状況」等

<いきいきサロン、子育てサロン、散歩クラブの令和2年7月～9月実績>

○実施回数ベース

	いきいきサロン	子育てサロン	散歩クラブ
予定回数	1,240	276	181
実施回数	312	28	74
実施率	25%	10%	41%

(参考) 箇所・クラブ数ベース

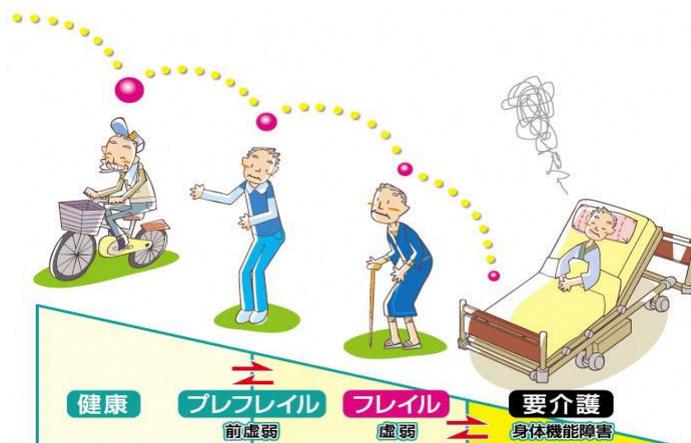
	いきいきサロン	子育てサロン	散歩クラブ
箇所・クラブ数	420	95	62
活動数	115	13	28
活動率	27%	14%	45%

- ・高齢者を対象とした「いきいきサロン」については、4分の1程度が実施しています。
- ・子育て中の親子を対象とした「子育てサロン」については、1割程度が実施しています。
- ・屋外活動である「散歩クラブ」については、半数弱が実施しています。

(2)地域福祉活動の停滞による影響

新型コロナウイルス感染症の影響が長期化する中で、これまで地域の通いの場を利用していた方々等をはじめとして、多くの高齢者の方々が、外出を控え、居宅で長い時間を過ごすようになってきています。このような環境下においては、生活が不活発な状態が続くことにより、身体や頭の働きが低下し、歩くことや身の回りのことなど生活動作を行いにくなり、フレイル(虚弱)が進んでしまうことが懸念されます。

(出典) 厚生労働省資料、一般社団法人日本老年医学会資料より抜粋



また、高齢者に限らず、生活困窮、児童虐待やDV、家族介護者の負担の増加、ボランティアのモチベーションの低下、社会的孤立の進行や生活課題の把握困難など、地域において、様々な課題が発生しているものと考えられます。

2 活動の再開・継続に向けた支援や工夫している事例等

(1) ガイドラインを活用した支援

SC、市社協のコミュニティソーシャルワーカー(以下、「CSW」という)や地区部会担当者等が、地域福祉活動団体等に対し、ガイドラインを活用した活動の再開に向けた支援を行っています。

① 『地区部会活動再開に向けてのガイドライン』(千葉市社会福祉協議会発行) <参考資料3>

社協地区部会に対し、事業ごとの留意点、様々な関連情報や会場での掲示物の様式等を示したものの。

② 『通いの場×新型コロナウイルス対策ガイド(第2版)』(東京都健康長寿医療センター研究所発行)

通いの場を再開しようとしているボランティアの方々が、感染症対策や地域社会の情勢、個人の心身社会的な変化等をふまえた通いの場の運営と実践をしていくための考え方のヒントを示したものの。

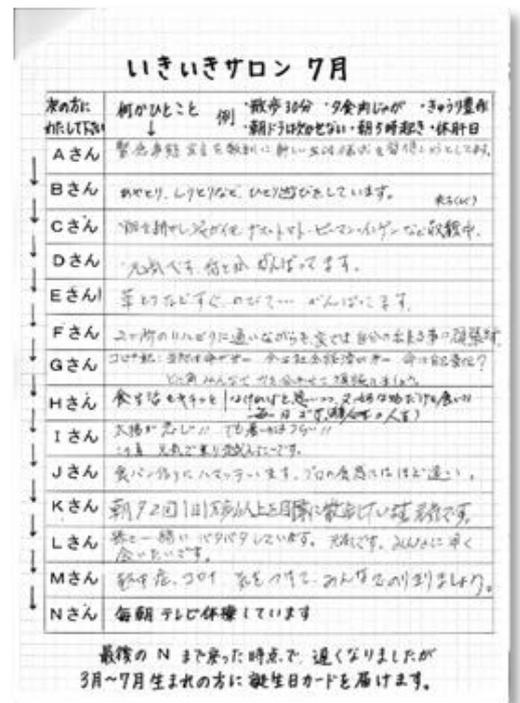
(2) 活動を継続するために工夫している事例

<市内>

- ・回覧板を利用した「お手紙サロン」
- ・工作キットを活用し、つながりを保つ工夫をした子育てサロン
- ・3密対策を徹底した子育てサロン
- ・SCによるZOOMの使い方講座
- ・ZOOMとリアルを組み合わせたハイブリッド型認知症カフェ
- ・理学療法士等によるオンライン体操サロン
- ・LINEを活用した子育てサークル

<市外>

- ・自治会の月1回の会合をオンラインで開催
- ・LINEを使った自治会回覧板を作成
- ・回覧板に交換日記機能を加えた「つながる回覧」によるサロン
- ・自宅に出向いての訪問サロン、青空居場所づくり
- ・民生委員がLINEで地域の一人暮らし高齢者の安否確認
- ・社会福祉協議会がリモートサロン(遠隔サロン)を開催



回覧板を利用した「お手紙サロン」

3 今後の方向性

第5期地域福祉計画の策定にあたっては、新型コロナウイルスの終息が見通せない中でも、住民同士の支え合い活動が維持・継続されるよう、新型コロナウイルスの感染を正しく恐れながら、「集まれる」よう支援を行います。

また、オンラインの活用等、より柔軟で効率的な方向に変革していく視点を全ての取組みに取り入れていきます。
 (「ちばし チェンジ 宣言！(地域福祉版)」<参考資料1>)

(1) 新型コロナウイルスの感染を正しく恐れながら、「集まれる」よう支援を行う。

支援策	具体的な取組内容(イメージ)
事例収集と共有	・社協お知らせの発行【市社協】 など
SC、市社協の CSW や地区部会担当者等による再開・継続への支援	・ガイドラインの活用 など
アルコール消毒液、アクリル板、マスクなど、感染症対策物品の負担軽減	・敬老会への補助事業中止に伴う代替事業として、75 歳以上の方を対象に町内自治会等の各団体が感染症予防物品(マスクや消毒液等)を購入した際の費用の一部を補助【高齢福祉課】 など
専門家によるコロナ等感染症対策の指導・助言・講演	・地区部会活動従事者向け研修会「感染症予防について」(講師:環境保健研究所 大塚所長)を開催予定(11/25)【市社協】 など
コロナ対応保険加入促進	・ボランティア活動保険の加入促進 など

(2) オンラインの活用等で、「つながれる」「コミュニケーション不足を解消する」ための支援を行う。

支援策	具体的な取組内容(イメージ)
事例収集と共有	・ホームページの活用 など
大学、事業者等多様な主体と連携した地域活動のオンライン化への支援	・大学、事業者等と地域団体とのマッチング ・スマホ(LINE/ZOOM)の使い方講座・研修・体験会の開催 ・地域活動に有用なスマホの使い方の研究 など
主催者・参加者へのICT(情報通信技術)活用のサポート	・地域活性化支援事業のフォローアップ研修会「情報発信研修～実はかんたんなWEB活動～(仮)」を開催予定(12/16)【若葉区地域振興課】 など
健康づくりや生活支援のための動画コンテンツの作成	・シニアリーダー体操等のテレビ放映及び動画配信【健康推進課】 など